



## 発刊のことば

相模原市陸上競技協会  
会長 神藤 昭嘉

相模原市陸上競技協会がここに90周年を迎え、記念誌を発行できますことは感慨深く、記念事業が盛大に開催できますことは誠に意義深く、会員一同大きな喜びとするところです。

本協会の前身であります「北相倶楽部」が昭和4年に発会し、激動の時代を諸先輩の熱意、努力により再建を果たし、昭和32年「相模原市陸上競技協会」と改称して現在に至っています。歴史の重みを痛感しながら伝統と実績の足跡を振り返ってみますと、陸上競技をこよなく愛し、情熱をもってご尽力なされた先輩各位、関係者の皆様に感謝の念でいっぱいです。また、本協会に寄り添って支えていただきました行政はじめ、関係諸機関・諸団体の皆様方には深く敬意を表しますとともに感謝を申しあげます。

本協会は、陸上競技の普及と振興、並びに競技力の向上を図り、スポーツ文化の進展と市民の心身の健全な発達に寄与することを目的として、長年にわたり本市のスポーツ振興に努めて参りました。

競技力においては、本市出身選手がオリンピックに出場する等、世界の舞台で活躍する選手を数多く輩出し、全国レベルの大会、インターハイや、駅伝での優勝、県を代表して活躍した選手も多く、輝かしい成績を上げています。普及育成の柱となっています小学生陸上教室は27年目を迎え、会員数は250名を数えるまでになりました。「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本となる動きを取り上げ、スポーツへの愛好心を育む場として有意義に活動を行っています。また平成24年から開催いたしました中高交流練習会は毎回600名を超える参加で、普及活動の底辺を広げ、成果を上げています。

スポーツ活動の環境作りに市行政当局のご理解のもと、熱心な取り組みにより平成26年4月、「全天候舗装6レーントラック、人工芝フィールド」補助競技場が公認4種として完成し、また平成27年4月に、競技場外周にはウッドチップ仕様のジョギングコース（クロスカントリー対応）が完成、平成30年4月、メイン競技場には最新型のナイター照明が完備されました。さらに平成31年4月、メイン競技場の公認申請に伴う改修工事が終了し、国際陸連認定のマーキングが表示され、名実ともに陸上競技の聖地としての環境が整いました。平成28年3月には、2016年相模原クロスカントリー大会を開催し、全国各地より有望な長距離選手が集い、盛大に開催されました。

この10年間では、関東高校選抜新人、関東高校、関東選手権、関東学生対校選手権(インカレ)、全日本大学駅伝予選会、四大学対抗、六大学対抗等、日本陸上界を担う選手の育成につながる全国レベルの大会も運営することができ、様々な競技会に対応できる運営技術は本協会として誇れることであります。新しい時代の節目となります令和元年10月には、県下で初めて開催された北相陸上競技大会が80回を迎えました。しかし、全国的に甚大な被害を与えた台風19号の影響により、やむなく中止といたしました。被災された皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。この大会で導入を予定しておりました、県下で初のスポンサー付きゼッケンは画期的な取り組みになると思っております。今後もアスリートファーストの精神を大切にして、選手から愛され、支えていけるような取り組みを目指して参ります。

結びに、この記念誌が陸上競技協会の財産として100周年に向けて新たな伝統をつないでゆき、陸上競技の多岐にわたる活動すべてに会員一同一丸となり、地域に根ざしたスポーツ振興に寄与できるよう努力精進を重ねる所存です。